

○正念場のコロナ対策。政策にメリハリを！

新型コロナウイルス感染症の第3波が世界中で猛威を振っています。アメリカやイギリス発のワクチンが行き渡り始めるのが来年の春頃という見通しが出てきました。日本国内でのワクチン開発が一周遅れとなっていることに、焦りを感じています。何よりも多くの資金と人材の投入を、政府が戦略的にバックアップして可能にしておくべきだったと悔やまれます。

政府の「ウイルスを抑え込みながら、経済活動を」という方策は、ウイルス対策をしっかり先行しなければ、両方を中途半端にってしまう可能性があります。冬場に感染拡大することは予想されていただけに、対応の遅れが悔やまれます。医療スタッフの確保、重症患者の病院専用ベッドや人工呼吸器などの機材の十分な確保はもちろん、中等症、軽症患者の家庭以外のホテルなどでの隔離対策を広げることが喫緊の課題となっています。検査体制も充分ではありません。熱など症状のある患者や濃厚接触者などクラスターを追うだけでなく、医療、介護の現場スタッフをはじめ救急隊の職員、学校や施設、民間でも飲食店やスーパー、コンビニの従業員など、不特定多数と接する機会が多く社会的に感染リスクの高い人々が定期的な検査を受けることのできる体制を作る必要があると、政府には言い続けています。73兆円の補正予算は、もっとメリハリをつけるべきです。

「Go To キャンペーン」は、一時中断。知事が感染リスクの高い飲食店などに、一時休業を再び要請する時は、実態に即した損失補償をきめ細かく行う。失業に対する手当、雇用調整金、持続化資金をこの第3波に対応して、再びの準備をすることを訴えていきます。第3波を乗り切ることが出来れば、ワクチン投与の目途も見えてくる段階に入ってきます。来春には、パンデミックを克服しつつあるという実感が国民の間でもてることが出来るように頑張ります。

○世界の中道政治結集

私が会長に就任した「日本プログレッシブ議員連盟」の国際的なネットワークが広がってきました。アメリカでは、特にトランプ政権の新自由主義経済に対抗する形で90人を超える議連の活動が広がっています。ヨーロッパは、ドイツに事務局を置いて、民主党系の政党やシンクタンクがネットワークを組んで、格差の克服やポピュリズムとの戦い、自然環境エネルギーへの転換、デジタル社会の構築と新しい人権問題に取り組んでいます。アジアでもフィリピンに事務局を置いたプログレッシブのネットワークがあることがわかりました。

コロナ禍で、ウェブによる会議が日常化し、私たち議員の間でも多国間の政策連携のための話し合いが、ウェブ上で開催されるようになりました。安倍政権のもとで進められ、壁にぶち当たっているアベノミクス。新自由主義経済に対するもう一つの選択肢としてのプログレッシブを、日本の中で中道政治による政策転換の軸としていきます。

○学校現場、頑張れ！

学校のICT化が急速に進んでいます。一方で、その担い手の学校が大きな問題を抱えていることが、はっきりしてきました。教育教材は、誰が開発していくことが望ましいかという問題です。昔から、参考資料やドリル、試験などを先生が手作りで作って子どもたちの状況に合わせた教育教材とすることが良いという話がありました。それが、いつの間にか、塾や教育出版社の作る既製品教材に置き換わり、理科の実験教材などもキット化してきました。学校以外の塾などを含む「教育産業」が日本の教育を大きく支えているのが現状です。

一人一台のタブレットを使って、子どもたちが学ぶ教材(アプリ)の開発も、また、それを利用した新しい教育の試みも、現状では、民間の事業者(教育産業)が教育現場を先導して、様々な実験をしながら進めていることがはっきりしてきました。この流れを進めれば、親の教育費負担はかさみます。所得による機会の格差も出ます。文科省ではなく経済産業省の世界なのです。

例えば、教育現場の先生方から生み出されてくるアプリをクラウド化して、いいものは学校現場の皆で共有できるようなシステムを組むとすれば、文科省の仕事ですべきです。子どもに近い現場の手作りの特選品を、皆で共有するような発想が大事です。教育教材開発や過度な塾・受験産業への依存を学校現場に取り戻すには、ICT化はまたとないチャンスです。

○寄附のお願い

衆議院の任期もあと10か月となりました。

例年であれば、政策セミナーや党支部の行事など、直接皆様とお話しさせていただく機会の場で、中川正春の政治活動への財政的なご支援をお願いしておりましたが、新型コロナウイルス感染症の収束が見込めない中、様々な行事を自粛しております。

経済状況の厳しい中ではありますが、皆様には、「寄附」という形で、中川正春の政治活動への財政的なご支援をお願いさせていただきたく、ぜひともご協力下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

※新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、新春恒例の『新春の集い』は、2021年度は開催を見合わせる事となりました。